

山形県知事賞

「給食おもしろ話」

最上町立赤倉小学校三年 岸 詩音

学校の生活の中で一番すきなものは、給食の時間。正午になると、ぼくはきゆうに元気になる。今までねむっていたおなかもぐーっと目がさめる。

給食メニューは全部すきだけど、ごはんが一番すき。カレー、ワカメごはん、ごもくごはん、いろんな形で登場する。

今日は、やったあ。ごもくごはん。早く食べたいと思っすわっていると先生が、

「ねえ、詩音君。詩音君の前にあるのが先生のじゃないの。これと量がぎゃく。」

と言って、自分の茶わんをぼくにさし出した。

「ちがいます。ぼくのは多くしてってたのんだんです。そしたら、いいよって給食当番が、山もりしてくれました。」

と、ぼくはひっして答えた。

「ふうん。じゃ、先生も多くしてもらっていいよ。」

先生も、ごもくごはんが大すきで、ごもくごはんが出るたびに、こう話しかけてくるのでこまってしまっ。

白いごはんのときは、

「ね、詩音君。ごはんあげる。先生のちょっと多いんだ。」

と言って、ぼくの茶わんを山もりにする。それで、おかずがおじゃけだったりすると、ごはんがすすむから、

「ねえ、詩音君。さっきあげたごはん、かえして。」
と言ってくる。

給食のごはんはいつもぎりぎりでのこらないから、ぼくは、

「たとえ先生でも、それはできない。」

とことわって、大いそぎで口の中に入れる。

「あーあ、しっぱいしたな。」

と、先生はざんねんがる。ほかの友だちも大いそぎでごはんを食べている。みんな、ごはんが大すきなんだ。

山形県農業協同組合中央会会長賞

「おばあちゃんのごちまね」

櫛引町立櫛引東小学校櫛代分校二年 森 麻美

わたしの家では、毎年五月三日ごろから、おばあちゃんがおささまき作りを始めます。五月五日のたんごのせつにおそなえをするからです。おばあちゃんの作るささまきは、おいしくて、わたしは大好きです。

おばあちゃんが、台所で、三角にしたささののちもち米を入れています。

「おばあちゃん、麻美もやりで。」

「作らいがや。むずかしぞ。せばの、米どりの、ささのはがらごぼねよう、作ってみね。ほれ、こつやって。」

「うん、大じょうぶだ。なんぼも作らいる。」

と、わたしも作ってみました。が、三角形のささののちもち米から米がごぼれていきます。

「あれあれ……。おばあちゃん、ごぼれる。」

ただ入れるだけだからかんたんそうに見えたのに。じゃ

あ、もう一回と、始めからやってみましたが、またすき間からごぼれていきます。何回やってもうまくいかないで、わたしはあきらめて、おばあちゃんが作るのを見ていました。すごいすごい。もち米を入れた三角のささまきがどんでんできていきます。そして、それをゆつくり時間をかけてに始めました。ぷうんと、ささのいいおいがしてきました。

「ほれ、ささまき、できたぞ。」

「やったあ。」

できたてのささまきに黒ざとうをつけ、きなこをまぶして、口に入れました。

「んー、うめのお。おばあちゃん。」

お姉ちゃんもお母ちゃんもゆきなもおいしいと言いながら、ここに顔を食べています。

おばあちゃんの作るささまきは、とってもおいしいです。こんなおいしいささまきを、わたしも作れるようになりたいです。来年こそは、わたしの作ったささまきを、ここでもいいからおばあちゃんに食べさせたいなあと思います。